



# 手づくり支援プロジェクト

～手づくりの器を直接被災地に届けよう～

## 第14回支援活動の記録 2018年11月10日～12日 (岩手県下閉伊郡山田町)



### これまでの活動実績 **手づくりの器、約1万8000個を提供！**

2011年7月	山田町(4000個を提供)
2011年12月	大槌町/釜石市(2700個を提供)
2012年7月	陸前高田市(3000個を販売、全売上を寄付)
2012年12月	気仙沼市(1200個を販売、全売上を寄付)
2013年6月	東松島市(1100個を販売、全売上を寄付)
2013年12月	石巻市(600個を販売、全売上を寄付)
2014年3月	石巻市(700個を販売、全売上を寄付)
2014年7月	南三陸町(600個を販売、全売上を寄付)
2015年2月	名取市(1500個を提供、全売上を寄付)
2015年9月	七ヶ浜町(700個を提供、全売上を寄付)
2016年3月	亶理町(650個を提供、全売上を寄付)
2017年4月	南相馬市(800個を提供、全売上を寄付)
2018年7月	南相馬市(100個を提供、全売上を寄付)
2018年11月	山田町(500個を提供、全売上を寄付)

募金総額 : 5,782,127円  
被災地への寄附金 : 2,414,160円 (チャリティー陶器市の全売上)



# 山田町(岩手県下閉伊郡)について

山田町は人口1.8万人の小さな漁業中心の町ですが、岩手の沿岸でも被害の大きかった町のひとつで、家屋の約45%が全壊という大きな被害がでました。

子供の頃に家族でよく釣りに行った思い出の深い町ですが、小さな町にはボランティア含め、なかなか支援の手が行き届かないという現状を聞き、手づくり支援プロジェクトの活動のスタート地点としました。(7年前の震災直後、いろいろな想いの中でこの地を選びました)

今回、メンバー一同再び復興の様子を自らの目で確認したいという想いも強く、以前お世話になった山田町観光協会のメンバーと再びお話をさせていただき、是非また来てほしいということで、開催の運びとなりました。山田町中心市街地活性化事業のオープニングイベント(後述)です。

第一回の活動報告書にも詳細を記載をしていますが、最新の情報にアップデートした山田町のデータを記載します。



## 1. 被災状況(山田町役場公表データ 2018/11/13日)

- **死亡者数 824人**
- 行方不明者数※ 1人

## 2. 家屋倒壊数の内訳

地区	全壊		大規模半壊	半壊	一部損壊	被災家屋の合計		居宅棟数
	数	割合				数	割合	
大沢地区	435	56.5%	32	37	26	530	68.8%	770
山田地区	1,300	50.6%	103	104	86	1,593	61.9%	2,571
織笠地区	477	45.6%	31	14	17	539	51.5%	1,045
船越地区	132	17.1%	19	21	32	204	26.4%	770
田の浜地区	324	63.0%	3	18	18	363	70.6%	514
大浦地区	94	26.5%	14	9	16	133	37.4%	355
<b>小計</b>	<b>2,762</b>	<b>45.8%</b>	<b>202</b>	<b>203</b>	<b>195</b>	<b>3362</b>	<b>55.8%</b>	<b>6,025</b>
豊間根地区	0	0.0%	0	0	7	7	0.5%	1174
<b>合計</b>	<b>2,762</b>	<b>38.4%</b>	<b>202</b>	<b>203</b>	<b>202</b>	<b>3,369</b>	<b>46.7%</b>	<b>7,199</b>

↓ 仮設住宅(山田町広報より)



### ◆入居時に配布される生活用品

区分	品名
衛生用品	シャンプー、せっけん、歯磨き粉、バスタオル、洗面器、ヘアブラシなど
台所用品	やかん、両手なべ、フライパン、包丁、まな板、台所洗剤、栓抜き・缶きり、お玉、ざるなど
掃除洗濯	ほうき、ちりとり、洗濯用洗剤、雑きん、物干し竿、ハンガー
救急用品	救急ばんそうこう、爪きり、体温計、綿棒、救急箱
備品	冷蔵庫、洗濯機、炊飯器、電子レンジ、テレビ、電気ポット
その他	時計、座卓、延長コード、裁縫セット、寝具類(敷き布団、掛け布団、シーツ、枕、枕カバー)、什器(茶碗、汁椀、皿、マグカップ、スプーン)、衣類(靴下、下着、Tシャツ、ジャージ)など

## 3. 仮設住宅/復興住宅

- 町内43箇所に1940戸の仮設住宅を建設(2011/6/1より順次入居開始)、2018/10/31現在は32箇所、1542戸。順次解体、集約し復興住宅への移転を目指しています。

### 住宅再建の工程(災害公営住宅)

※2018/9末データ

	合計	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	調整中
民間住宅等用地	1,192戸			67戸	185戸	374戸	289戸	277戸		
災害公営住宅	640戸			72戸	167戸	249戸	116戸	36戸		
<b>合計</b>	<b>1,832戸</b>			<b>139戸</b>	<b>352戸</b>	<b>623戸</b>	<b>405戸</b>	<b>313戸</b>		

- 2018年度末までに1832戸の復興住宅が完成予定

## 4. 山田町の被災の特徴

### (1) 地震と津波の状況

14時46分の地震で山田町では震度5弱が観測され、15時22分頃には山田湾に津波が到達  
町内の各地区に到達した津波の推定高さは、右の通り。

■ 津波の高さ

地区名	津波高さ	備考
大沢	約 8m	
柳沢・北浜	約 8m	
山田	約 8m	
織笠	河口部約 10m 内陸部約 5m	遡上高
船越	約 15m	遡上高
田の浜	約 18m	遡上高
大浦	約 9m	遡上高
小谷島	約 25m	遡上高

山田町では、これまで過去の津波の経験を踏まえ、長い年月と巨費を投じて、大規模な堤防を築いてきましたが、今回の津波はその堤防をはるか高く越え、さらにはなぎ倒し、安全だと信じられていた背後の住宅や施設を飲み込み、多くの生命、財産が失われることとなりました。

### (2) 火災による被害

地震発生後、山田地区及び田の浜地区では大規模な火災が広がり、織笠地区及び大沢地区でも小規模な火災が発生しました。がれきによって道路が寸断され、地震に伴い水道も停止し、消火活動も十分に行えないまま、陸中山田駅を中心とする中心市街地は広範囲にわたって焼失しました。

#### 山田町役場周辺



津波後、火災により広範囲の消失。

#### 役場周辺の住宅街



食器も割れて多数散乱しています。

#### 海岸付近



防波堤が倒壊・・・

#### 老人介護施設



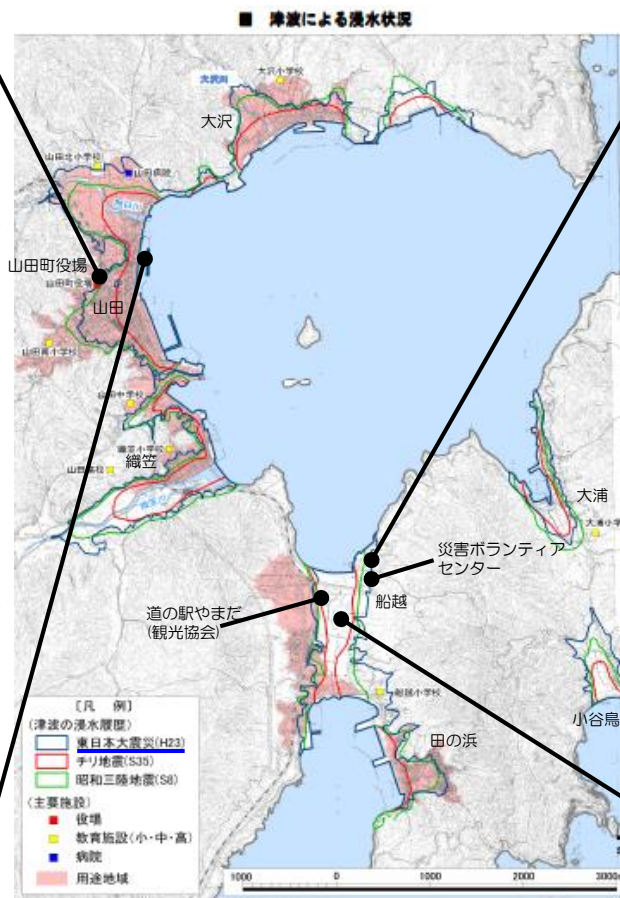
建物すべてが津波にのみれる  
ここでも多くの方が亡くなりました。



車と鉄くずの山(集積所)  
今後の処理が課題。



両方向からの津波により半島の  
付け根が水没。

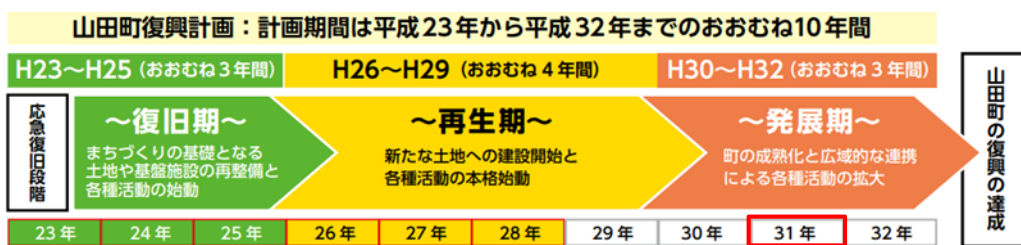


### (3) 建物・公共施設等の被害

今回の震災で被災した家屋は、その多くが「全壊」となりました。漁港、水産加工場、市場などの水産関連施設は壊滅的な被害を受けましたが、だいぶ復旧が進み、震災前の40から70%まで回復したようです。(復興庁の見積もりは後述)

# 山田町の復興計画について

復興計画イメージ(山田町役場HPより)



【山田町復興計画の基本理念】

- ① 津波から命を守るまちづくり
- ② 産業の早期復旧と再生・発展
- ③ 住民が主体となったまちづくり

平成26年から始まる「再生期」の終盤を迎えた現在、新たな土地での住宅再建はピークを迎え、なりわいの再生に向けた活動も本格化しつつあります。

## ① 津波から命を守るまちづくり

- ・安全な居住地の整備  
→居住地の安全を確保するため、**高台造成や盛土嵩上げ**により住宅団地を整備
- ・海岸保全施設の復旧・整備  
→8つの海岸で**防潮堤の復旧・整備**を推進(2019/3月に完成見込み)
- ・市街地・集落地間を連絡する道路の整備  
→市街地や集落地間を連絡する道路の整備  
山田宮古道路(山田I.C～宮古南I.C)、釜石山田道路(釜石JCT～山田南I.C)など
- ・防災への取り組み  
→防災行政無線の整備、災害に備えて各地区に防災倉庫等を設置(食糧等の備蓄)
- ・上下水道の整備  
→上下水道の復旧・復興工事(下水道の終末処理場の建設)



海岸沿いの防潮堤(9.7～12.8m)



クリエイトピアやまだ(下水処理場)



びはん(オール 共同店舗)

## ② 産業の早期復旧と再生・発展

- ・漁港・漁場(養殖場)の復旧  
→**漁港機能は一部を除き回復、漁船や養殖施設、共同利用施設などの生産基盤の復旧もほぼ完了**
- ・農業生産基盤の復旧・整備  
→災害復旧事業や復興事業による再整備
- ・商業施設の集積促進と賑わい創出に向けた取り組み  
→**陸中山田駅周辺を拠点の商業地域**とし、コンパクトで利便性が高い施設配置、賑わい創出に向けた施策  
(山田町まちなか交流センター、テナント10社による共同店舗棟「オール」など)
- ・観光客の誘致  
→かき小屋の復旧や簡易宿泊施設の整備など、観光客の再誘致に向けた取り組み



かき小屋



トレラハウス

## ③ 住民が主体となった地域づくり

- ・復旧・復興情報の発信  
→「出前講座」や「かわら版」による復旧・復興情報の発信
- ・安心して暮らせる住宅の供給  
→資金力や住宅ローンの返済能力など、経済面で住宅再建を後押しするため、**町内の建設業者で組織**された「山田型復興住宅協議会」と協力、**低廉で良質な「山田型復興住宅」**を提案
- ・医療・介護・福祉施設の早期復旧  
→入院機能を持つ**県立山田病院が再建**(2016/9開院)
- ・教育施設の早期復旧  
→**船越小学校の再建**(裏山を切り開き嵩上げ、  
海拔13→24mの位置で再建)



船越小学校(2014/4 完成)

# 山田町での陶器市開催

イベントなどの少ない被災地で実際の陶器市のように、好きなものを選び、少しでも楽しんでもらいたいということで、これまで同様にチャリティー陶器市という形で開催しています。今回は山田町、観光協会などが主催する「復興 山田を味わうまつり(三陸防災復興プロジェクト2019)」のなかで設商店、地元の産物などの出し物とともにチャリティー陶器市を開催しました。

イベントのポスター(陶器市の記載も)

今回のイベントは地域の様々な産業と市民団体が力を合わせ、市街地において「まつり」を開催することによって、地域市民がともに集い、ふれあいと賑わいのある街づくりを通して地域の活性化を促すことを目的としたイベントです。

手づくり支援プロジェクトとしましては、町の方々に7年前とは全く違う気持ちで喜んでいただきたいという想いと、現在の町の復興の状況を実際に確認し、ご支援いただいている多くの方々へもお伝えしたいという想いで参加をさせていただきました。(2011/7月の支援活動は私たちも経験したことの無い現地の切迫した心理状況を目の当たりにし、かなりショックを受けました。そういう背景もあり、イベント開始まで不安と期待の入り混ざった感情でとてもドキドキしていました・・・)

## ロケーション



イベントは大きく3つの会場で開催されました。

手づくり支援プロジェクトのチャリティー陶器市は山田漁港に面したメイン会場にて開催させていただきました。(会場レイアウトは後頁に記載)

# メンバーの活動風景

## 11月10日(土)出発



・AM8:30 器を保管していただいている宇都宮のレストランNORAさんに集合。これまで準備した器(約2000個)を梱包したコンテナを車へ積み込みます。行程のブリーフィングを行い、出発しました。(計6台の車、13名で現地入り)



・水沢ICを降りてようやく遠野、木々は紅葉しています。山田町まであと60km(写真中央)。PM:6:30 宇都宮から約480km、ようやく山田町の宿泊施設に到着。写真右は明るい時間の写真(宿泊施設宿：湯らっくすやまだ) 震災後に出来た新しい宿泊施設です。

## 11月11日(日) 山田町(復興やまだを味わうまつり)での陶器市開催

地元の海産物やお店、ステージでのイベントなどが開催され、多くの方々が訪れ、大いに活気あふれるものとなりました。

### 開催の様子



・朝7時 山田の天気は快晴。山田町職員の方々にご挨拶をして、車から器のコンテナを降ろし、テントの調整、テーブルの設置、器のディスプレイをメンバー総動員で行います。



・梱包を解き、アイテムごとに器を並べてゆきます。梱包用の新聞準備、案内板などのレイアウトを急ピッチで行います。



・8時半、ディスプレイもほぼ完了、今回も益子焼を中心にたくさんの作家さんの素敵な作品たちが並びました。メンバーで段取りの最終確認を行い、9時からチャリティー陶器市の開催です。



・開始からたくさんの地元の方々が来ていただきました。震災直後に選んだ器をまだ大切に使っているよ、と喜んでくださる方など、7年ぶりの方々と再会は何とも言えない嬉しさを感じました。震災直後は飯椀、湯飲み、小皿だけでしたが、今回はたくさんの種類の器があっていいね、と嬉しそうに選んでいただきました。



・15時イベント終了！地元の方々にまた来てほしいという声を多数いただき、嬉しいあっという間の時間でした。総動員で撤収作業をおこない、最後に山田町役場の方々に挨拶し、宿へ戻ります。

山田町でも計画の災害公営住宅はほぼ完成しているため、陶器市では新しい住居で用いる器のニーズが多く聞かれました。

求める器の種類も長皿や小、中鉢など、これまで以上に多様なニーズが増えてきています。また、前回同様にこれまでニーズが落ちていた、茶碗や湯呑、今回特にカップ&ソーサーを買い求める方々が多くいました。こちらもこころのゆとりや、新規に揃えたいという心境の方々が多かったのかもしれませんが、今後もこれらの現地の声をもとに、ニーズにこたえてゆけるように準備をしてゆきたいと思います。

今回も多くの作家さんより無償で器を提供をいただきました。また県外の作家さんからもご協力をいただき、数としてはこれまで同等の約2000点を用意することができました。

震災から7年半とだいぶ時間が経っていますが、継続してご協力くださる作家さん、協賛店の方々、県外からもHPやご紹介で、関心を持って下さる方々など多くの方々のお力添えのもと、プロジェクトは継続することができています。心から感謝と御礼申し上げます。

手づくりの器は見て楽しめるだけでなく、実際に触れて使っていただくことで徐々に変化し、味が出てきます。復興へむけたこれからの長い道のりの中で、被災地の方々とともに毎日の食へのいろどりを与え続けられたらという想いを込めて、当初から変わらずチャリティー陶器市を開催しています。山田町の方々にも末永く使っていただけたら嬉しいかぎりです。

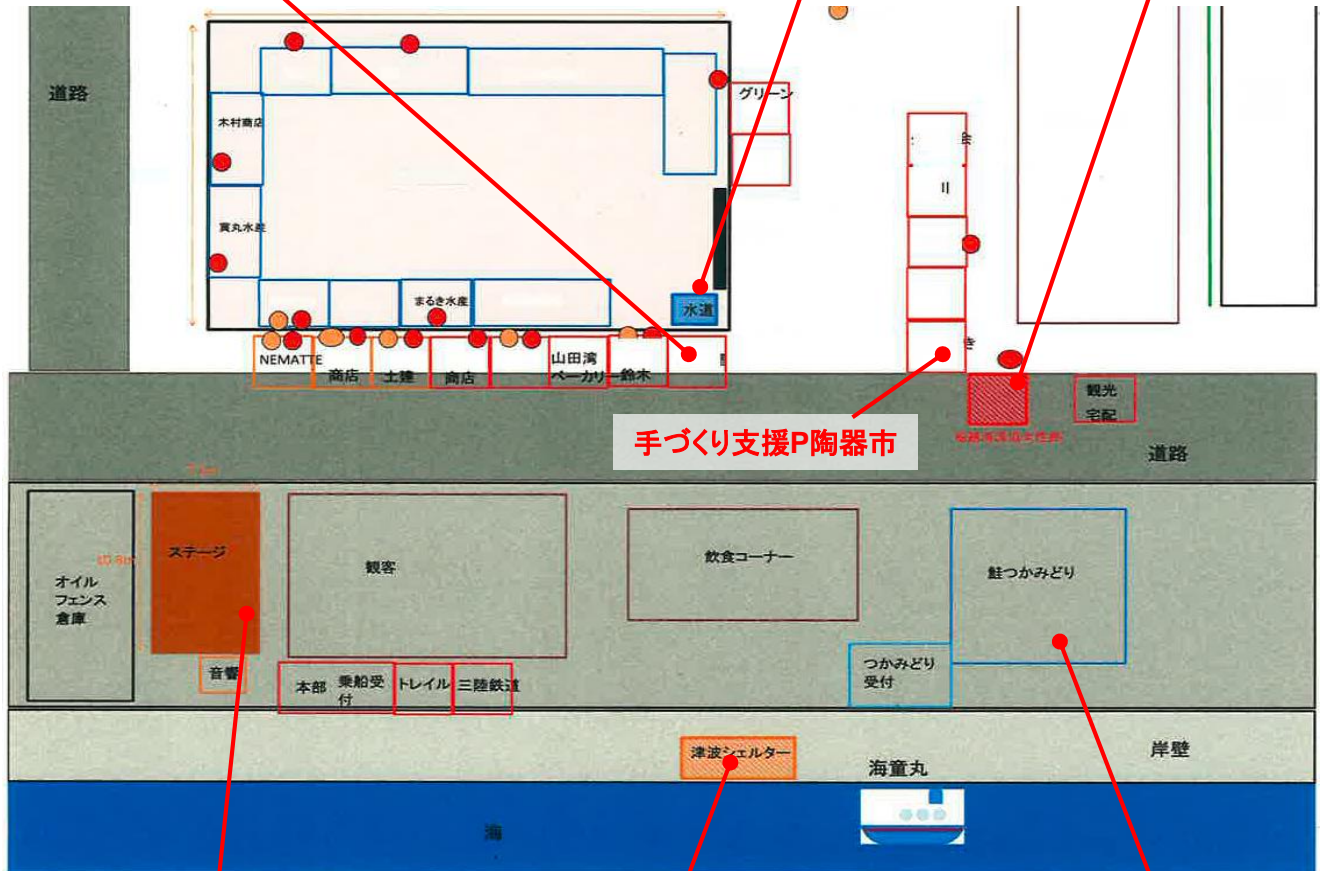


## イベントレイアウト(詳細)

メイン会場では鮭のつかみ取り、地元飲食店や県内の支援団体のブース、山田町の漁連の海産物の販売などが行われました。また、郷土芸能やイベント、ショーなども行われ、多くの方々で賑わいました。地元の出店者の方々や地元の方々もとても明るく、いろいろお話をしながら震災後から現在の山田町の様子を知ることができました。



- ・メイン会場の様子。左写真の地ビールや地元のパン屋さんなど物販テントが並びました。建物の中では新鮮な海産物(鮭やホタテ)などの販売、かき汁などが振るまわれ、朝から多くのひとで賑わいました。



- ・写真左はステージでの郷土芸能虎舞、中央はアルミ製浮揚型津波シェルター(定員21名)の展示、右写真は子供たちに大人気の鮭のつかみ取りが行われました。

## 11月12日(月)現地の様子①

翌日、メンバーで現地の様子を見て回りました。7年前にイベントを開催した場所や、役場周辺などをまわりましたが、新しく住宅も建ちはじめ年末に向け工事も加速しているようでした。途中、地元のかたの案内で当時の状況を聞きながら、特に被害の大きかった船越湾周辺をまわり、栃木に向け帰路につきました。(当時との比較は次頁に)



• 海岸線には大きなコンクリートの壁(約10m)が建設されています。山田町ではこの堤防を越えてきた海水は内側の窪地に貯め、高台への水被害を押さえるコンセプトになっているそうです。賛否両論あるものの人命を守るための備えとして現状必要な対策となっています。岩手県ではこの防潮堤の数は134箇所、総距離は83kmに及びます(岩手では普代村の15.5mが最大高さ)。



• 写真左の海との境(破線の部分)が防潮堤です。高台から見ても海がほとんど見えません・・・高台の工事、住宅の建設はまだまだ途中、引き続き行われていました。



• 津波で流された路線はJRから引き継ぎ、2019/3月から三陸鉄道として再開しました。新しくなった陸中山田駅の周辺には災害公営住宅(マンション)も完成していました。(写真は11月、工事中のもの)



• 18:30宇都宮に到着後、コンテナなどを車から降ろし、片付けなどをして全行程終了！

# 写真で見る現在の状況

(※2011/6と現在の比較)

陸中山田駅(三陸鉄道 2019/3/23 再開 第三セクターとしては国内最長路線:163kmとなる)



おぐらやまより国道45号線を望む(10mの防潮堤とともに住宅地や商業施設が再生)



鯨と海の科学館前(船越瓦礫集積所→駐車場と公園としてきれいに整備)

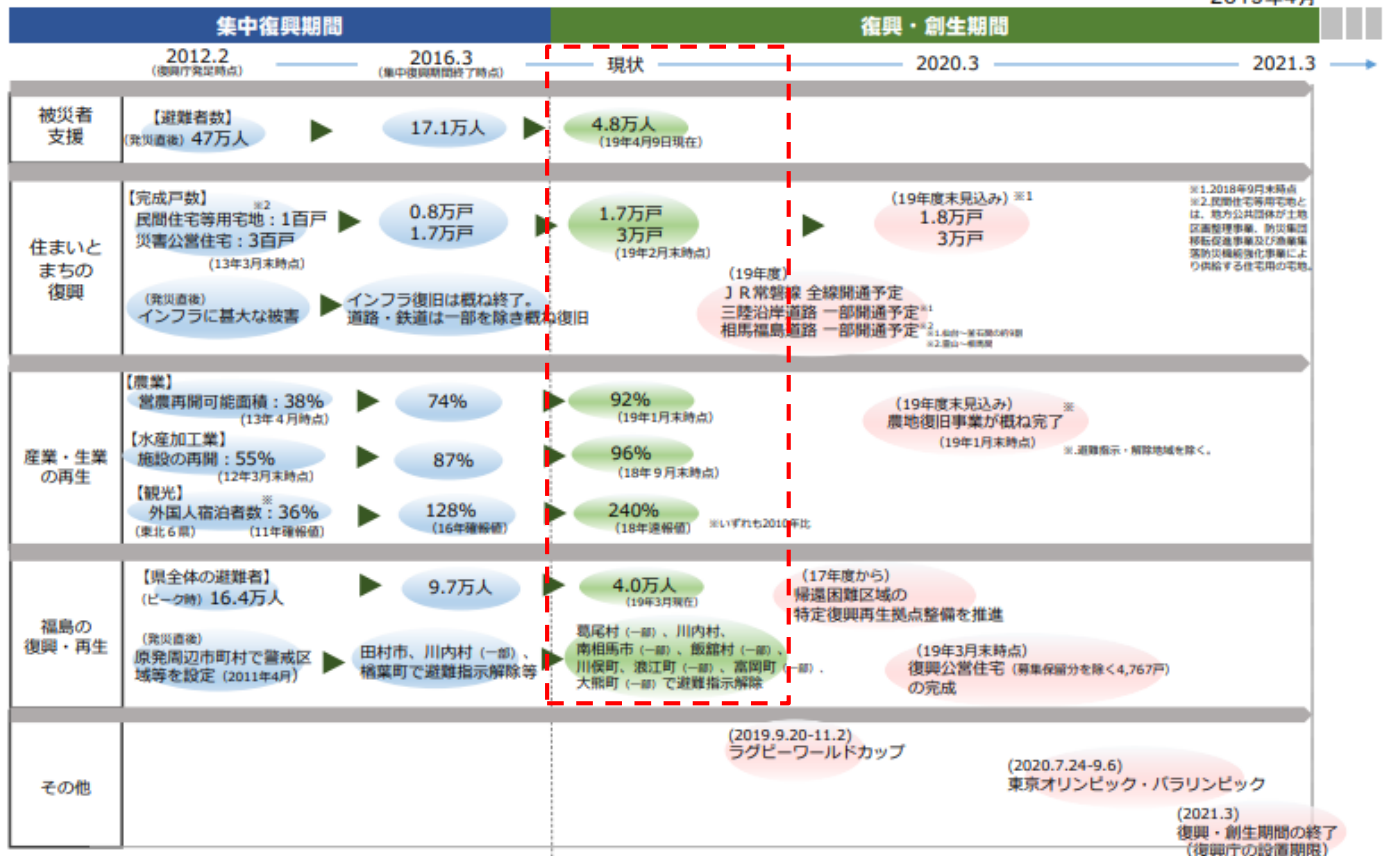


鯨と海の科学館(多くの展示品が流失したが 2017/7/15 再開)



# 東日本大震災からの復興に向けた道のりと見通し

2019年4月



## 仮設住宅入居者の推移



## 建設される防潮堤数、距離

	岩手県	宮城県	福島県
箇所数	134	382	72
総延長	83 <sup>キロ</sup>	240 <sup>キロ</sup>	72 <sup>キロ</sup>
最大の高さ (設置市町村)	15.5 <sup>メートル</sup> (普代村)	14.7 <sup>メートル</sup> (気仙沼市)	8.7 <sup>メートル</sup> (富岡など 4市町)
事業費	1兆3500億円 (青森、茨城、千葉県の実業を含む) ※国土交通省などによる		

復興庁の公表している数字によると、この4月現在で当初47万人いた避難者は4.8万人に減っています。そのうちの約8割(4万人)は福島の方方で、プレハブ仮設住宅に住まわれている方はいまだに約千人もいます。岩手、宮城は防潮堤の建設や高台への移転を進めており、町の景色はだいぶきれいになってきています。今年度末を目指して高台への移転、公営住宅などの、住まいと町の復興は完了予定となっていますが、高齢者の見守り、心身のケア、生きがいがづくり、といったような「心の復興」が課題となっているようです。

これまで東北3県で支援を行ってきましたが、福島はやはり原発の問題が大きく、常磐道にあるモニタリングポストは昨年と同様、高いところでは3μs/h、高速から見えるプレコンバック(原発からの放射性廃棄物を詰めたもの)は昨年に比べ、かなり増えていました。現地の方々と話をすると、生活はだいぶ元に戻ってきたとおっしゃっていましたが、農作物や海産物は風評被害などもあり、かなり厳しいと・・・。

私たちがイメージだけでなく、現状を正しく知って、行動することが大切だと思います。関東の電力は福島の原発が多くを担ってきました。その重みも忘れずに日々生活をする、仕事や支援活動を通じ、何かその恩返しができるかと思っています。

# 参考2 復興に向けたマイルストーン(復興庁:2019/4)

	集中復興期間												復興・創生期間																							
	2011			2012			2013			2014			2015			2017			2018			2019														
	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月			
<b>避難者</b> (避難者数)	避難者 仮設住宅投資 仮設住宅関連の環境整備 自立再建、災害公営住宅等での再建																																			
	47万人 34万人 30.9万人 26.4万人 22.5万人 17.1万人 11.9万人 7.1万人 5.2万人 4.8万人																																			
<b>災害廃棄物(がれき)の撤去、及び処分</b> (がれき処理・処分量)	居住地域近の がれき撤去 仮設場へ運搬 撤去率 100% 100%																																			
	6% 58% 97% 97% 100%																																			
(津波埋没物の処理・処分量)	仮設場へ運搬 津波埋没物の処理・処分																																			
	4% 32% 97% 99% 100%																																			
<b>インフラ</b>	応急復旧 継続復旧 本復旧・復興																																			
<b>海岸対策</b> (本復旧・復興工事の計画箇所67のうち、着工、完了した箇所数の割合) ※2014年3月末まで、本復旧工事の計画箇所67のうち、着工、完了した箇所数の割合	着工 完了 68% 81% 88% 96% 99% 完了 70% 82% 87% 95% 98%																																			
<b>復興道路・復興支援道路</b> (計画延長(事業中期間と供用済期間の合計)570kmのうち、着工済延長(工事着手した区間延長)と、供用済延長の割合)	着工 完了 63% 86% 94% 98% 100% 完了 37% 39% 42% 49% 58%																																			
<b>住宅の自主再建</b> (被災者生活再建支援法(加算部分)の支給状況)	7.1% 9.8% 11.1% 11.9% 12.7% 13.4% 14.1% 14.8%																																			
<b>まちづくり(防災集団移転、区画整理等)</b> (防災集団移転促進事業での計画決定(大臣同意)地区の割合)、(民間住宅等集約地の供給計画地区数(402地区)、戸数(18,233戸)のうち着工(工事契約)した地区数の割合、及び完成戸数の割合)	計画 1% 100% 84% 98% 99% 99% 100% 完了 5% 5% 22% 45% 70% 89% 95%																																			
<b>災害公営住宅</b> (災害公営住宅の供給計画戸数(30,167戸)のうち着工(用地確保)した割合、及び完成戸数の割合) ※計画中及び締造者向けの災害公営住宅は推移率には含まない	災害公営住宅の建設開始 災害公営住宅の完成																																			
	45% 65% 93% 97% 98% 99% 99% 99% 9% 9% 31% 58% 84% 96% 99% 99%																																			

2019年4月

	集中復興期間												復興・創生期間																							
	2011			2012			2013			2014			2015			2017			2018			2019														
	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月	9月	11月	1月	3月	5月	7月			
<b>医療施設</b> (入院の受入制限または受入不可(182箇所)のうち回復した病院の割合)	被災した病院の復旧																																			
	90% 90% 93% 95% 95% 97% 98% 98%																																			
<b>学校施設</b> (被災公立学校施設(2,340校)のうち、災害復旧事業を完了した学校の割合) ※申請済み含む	被災した公立学校施設の復旧																																			
	92% 96% 98% 98% 99% 99%																																			
<b>農業</b> (津波被災農地(18,800ha)のうち、営農再開が可能となった面積の割合(平成28年度からは、津波被災農地から農地転用された農地等を含んで算定))	農地の損傷箇所の復旧・除塩等を実施																																			
	38% 63% 70% 74% 84% 85% 92%																																			
(被災3県で業務再開を希望する水産加工施設(790)の再開状況)	製氷施設や冷凍冷蔵施設の復旧、用地の嵩上げ等により水産加工業の業務再開を支援																																			
	55% 74% 80% 83% 87% 92% 95% 96%																																			
<b>地域産業</b> (被災地域の純工業生産指数)	被災地外の企業等で復旧再開																																			
	70% 95% 100% 99% 76% 66% 31% 20% 19% 4% 5% 被災地外の企業等で復旧再開																																			
<b>事業者支援</b> (仮設店舗・工場・事務所の整備(竣工)所数累計)	仮設店舗等の整備・グループ補助会による復旧支援・二重ローン対策等による支援 地域産業や商店街などの本格的な復興																																			
	16万人 224万人 400万人 516万人 563万人 577万人 586万人 589万人 590万人																																			
(中小企業等グループ補助会による復旧支援(竣工)所数累計)	316万人 3,829万人 5,779万人 8,012万人 9,943万人 10,416万人 10,944万人 11,263万人 11,401万人																																			
(震災直前の水準以上まで売上が回復していると回答した事業者の比率(グループ補助会交付先へのアンケート))	29.5% 32.5% 36.6% 40.3% 44.8% 45.2% 45.0% 46.4%																																			
(二重ローン対策・債権買取り等の件数(半年ごと、東日本大震災発生後発生再発支援債、産業復興債))	11% 74% 187% 179% 202% 131% 97% 59% 56% 33% 31% 5% 8% 2% 4%																																			
(中小規模事業者向け資金繰り支援策(融資実施額、日本大震災復興特別貸付、災害復旧貸付、セーフティネット貸付、セーフティネット貸付))	2.8兆円 2.1兆円 0.7兆円 0.4兆円 0.1兆円 0.08兆円 0.07兆円 0.06兆円 0.07兆円 0.07兆円 0.05兆円 0.03兆円 0.03兆円 0.01兆円 0.01兆円																																			
(個人債務者等対策(個人版私的債務整理ガイドライン 債務整理の成立件数累計))	4.3兆円 1.9兆円 1.5兆円 1.3兆円 1.1兆円 0.8兆円 0.4兆円 0.4兆円 0.4兆円 0.3兆円 0.3兆円 0.2兆円 0.2兆円 0.1兆円																																			
	10% 83% 292% 563% 876% 1,099% 1,209% 1,289% 1,344% 1,347% 1,354% 1,359% 1,361% 1,369%																																			

※数値がゼロになっている各指標については、集約処理等によって、各年度で数値がゼロの箇所が一部ある。

# 第14回手づくり支援プロジェクトまとめ 収支

この7年間で東北の被災地に約18000個(無償やチャリティー販売)の器を提供し、全売上(計241万円)を寄付してきました。それらは仮設住宅や復興住宅、店舗など様々なところで使っていただき、喜んでいただいています。陶器市や協賛店での募金額の減少もありますが、作家さんの協力のもと、無償提供いただく器の割合も増えて、毎回約2000~3000個の器を準備し現地へ持ってゆくことができています。

## 収支報告

- 準備(無償/購入)器数 : 約2000点 (うち提供数: 500個)
- 協力作家数 : 約100名 (HPへの非記載分含む) + ポーセラーツでの協力作家、生徒さん
- 協賛店数 : 44箇所 (2018/11時点)  
※協賛店: 当支援の趣旨に賛同いただき、募金箱やメンバーの募金促進グッズの設置協力をいただいているお店、募金促進グッズ用の革、器などをご提供いただいているお店など

### 収入(募金分: 第13回分と合算)

- 合計(11/9時点) : 259,907円  
募金額内訳  
個人、協賛店(陶器市やイベントでの募金含む)

### 支出(器購入費、グッズ材などその他経費)

- 合計 : 225,496円  
内訳  
報告書作成費/グッズ製作費/募金推進用材料費  
(ボード/募金箱、募金促進用缶詰、郵送費、器着払送料など)

**34,411円(第15回へ繰越)**

### チャリティー陶器市での収入(イベントでの器販売分)

- 合計 : 89,400円

売上は全額(89,400円)を、山田町へ寄付し、今後の復興に使っていただくこととしました。

- その他  
(宿泊費@13名 計176,800円 : 全てメンバー自費  
また、現地移動費の一部を本田技研工業株式会社より援助いただきました)

今回は7年ぶりに山田町のたくさんの笑顔を見ることができました。震災直後に提供した湯飲みや飯椀を「まだ使っているよ」「重宝してたんだけど割れちゃったから、また来てほしかった」など、本当に嬉しい声、地元の方々との再会がいくつもありました。陶器市イベントだけでなく地域の方々とのふれあいの中で、復興に向けた明るさに、逆にたくさんのパワーをいただいたのは私たちでした。

プロジェクトの支援メンバー、作家さん、協賛店の方々、支援金をいただいた多くの方々のおかげで第14回の東北支援活動が達成できたことを心より感謝しています。(今回も多くの作家さんから無償提供のご支援をいただきました。)

この活動を続けてきて様々な現地の現状、人々の感情の変化などを見てきました。仮設住宅の居住期間の延長措置とともに、復興住宅への引越しも進んでいます。また再起した地元商店などの物産販売の全国ネット展開や新たな付加価値を付けた商品開発など、以前では想像もしなかった大きな変化も生まれています。震災があったからこそ新しい挑戦がたくさん生まれていて、明るい兆しも実感として感じています。東北のひとびとの持ち味である、決してあきらめない心と日本の多くの秀逸な技術力が合わさって危機をチャンスへと活かす動きが広がっていると思います。

小さなプロジェクトですが、メンバー丸力を合わせて継続してゆきますので、今後ともどうぞ変わらぬお力添えのほど、宜しく願いいたします。

# 第14回手づくり支援プロジェクト参加メンバー



## ・第14回お届けメンバー

吉田弘道/紘崇      鈴木祥子      木村世傑      井上直樹      田中之人  
松谷正博      小向麻子/Edward-san      山脇琢磨      細川かおり  
望月崇史      小林絵美

## ・協力作家(名前の順)

相澤かなえ	笠原良子	斎藤圭	中村かりん	Masa
阿久津雅土	梶山友里	坂本光永	成田真澄	増湊葉子
岩見晋介	勝村顕飛	坂本雅子	能登美登利	増永典子
池上暁生	加藤博史	佐藤敬	野水美里	松下曜子
伊佐名美子	加藤弓	茂野俊也	長谷川奈美	松下忠生
石嶋哲彦	加藤喜道	清水秀輝	蓮見かおり	松本歳郎
いちかわ清美	川崎萌	荘司武臣	原泰弘	豆腐なる美
伊藤ヨリ	川島郁朗	菅谷太良	樋口早苗	三戸綾乃
大塚温子	上條富子	薄田いと	平泉志津子	溝口丈
大津広子	川又和子	ヅェルビーガール	平松龍馬	宮島将實
奥住久雄	岸タカコ	関口洋平	福地綾子	棟方美峰
小野悦子	北川チカ	関口まきこ	福田惣一	もときみちこ
おぬきなつ	木村世傑	関川佳古	福山龍之介	
岡本芳久	国友武志		藤田安雄	吉澤奈保子
岡本有希子	桑川通治	瀧昭典	藤井美香	アソケイ
岡田直恵	倉前幸徳	長豊陶苑	杵かかり	若菜綾子
岡部耕太郎	栗原節夫	豊田雅代	堀水小夜	渡辺キ工
おとがわさとこ	桑原純	陶遊舎谷口	堀水達雄	渡辺六郎
尾関翼郎	後藤義国	戸塚佳奈		渡辺克典
	近藤康弘			その他多数

## ・協力作家(ポーセラーツ)

全国(関西、関東、九州など11か所)の教室/インストラクター、生徒の方々より、多数の作品のご支援をいただきました。

## ・支援してくださった多くの方々

協賛店(次項)の方々、メンバーゆかりの多くの皆さま、職場の皆さま、報道関係の皆さま、  
本田技研工業株式会社

- ・協賛店(募金箱/グッズ設置協力)

## Company

ジョイコム株式会社  
ソフトバンク インターパーク宇都宮  
ソフトバンク宇都宮東  
ソフトバンク宇都宮鶴田  
ソフトバンク鹿沼  
ソフトバンク古河  
ソフトバンク真岡  
ソフトバンクヨークタウン大平

パインズ日光ゴルフ倶楽部

株式会社つかもと  
作家館 つかもとギャラリー  
つかもと記念館  
株式会社 日本ヴォーグ社

## Cafe & Gallery

GALLERY IN THE BLUE  
Cafe R hana  
QupuQupu  
Café KENZOSUN  
益古時計  
GALLERY TAS TAS  
CAFE CENTRO  
イチトニブンノイチ  
ミハシカフェ

## Select Shop

ハナムグリ  
GOURD+m  
うつわ坂  
アートショップ向井  
相玄窯の店 木洩れ日  
仁平古家具店  
益子 第二倉庫  
釉日  
陶のね

## Beauty

PESCA-COCCA  
Handmade soap SQUAMISH  
salon kyoko  
minori理容所  
UppityCovo  
hair Labo natura  
Ripple Marks HAIR  
seal hair work

## Education

バナナキッズ (英会話教室)  
雀宮校、戸祭校

## Stay & Culture

二期倶楽部 アートビオトープ那須  
NAO テニスクラブ

## Food

pain de masha masha and coffee  
ぱんとおかし ノアン  
食工房NO-RA  
とらっとりあ天野  
Taverna Sakurai  
銀座園  
Bis-t-eria Meli-Melo  
TORATTORIA da RIOBA  
鮨暁  
Conifers  
らー麺 藤原家

ホイッスル用の革を提供していただいています。  
Special thanks!

オーダーメイド靴  
銀座てつじ屋

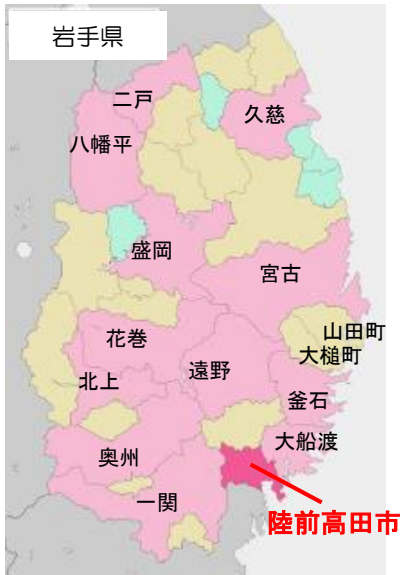
レザークラフト  
井戸辰ドットコム  
READY OR ORDER  
石井裁断所  
(株)廣瀬

ハンドバッグとトータルファッショングッズ  
株式会社クイーポ



# 第15回手づくり支援プロジェクトについて

第15回は自治体のニーズやイベントのタイミングなどと調整しながら検討を進めてゆく予定ですが、第3回の活動からまる7年となる岩手県陸前高田市を検討しています。  
開催情報は詳細が決まり次第、手づくり支援プロジェクトのHPにアップいたします。



ボランティアには様々な形がありますが、少しでも関心を持っていただければ嬉しいですし、心が動いてこれから何かしたいと思っていただければ本当に嬉しい限りです。  
まずは観光でもいいので、出来れば現地に足を運んでご自身の目で確かめていただければと思います。  
もしくはその地の商品を購入するのも現地に寄り添うことにつながると思います。

自分も東北で育てられ、その恩恵を何かの形で地元に戻したいと思いつつ、また栃木では多くの仲間や友人、支援してくださる多くの皆様に支えられています。誰かのために何かをするということは、かならずどこかでつながり、良い連鎖を生むと信じています。

引き続きみなさまのご支援、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

◎お問合せ「手づくり支援プロジェクト」で検索

<http://handmade-project.iimdo.com/>

◎支援金の口座 / 銀行振込

足利銀行：駅東口出張所 (普) 3230334

口座名義 手づくり支援プロジェクト



※携帯からはこちら

作家さんと第14回お届けメンバーの写真



**手づくり支援プロジェクト**  
<http://handmade-project.jimdo.com/>

**手づくり支援プロジェクト**

手づくりの器を直接被災地へ届けよう

